

18番（大渡幸雄君）〔登壇〕

議長より登壇の許可をいただきましたので、新政策研究会、山内町の大渡でございます。ロングヒッター、長距離バッターの3名さん、先輩諸氏が十二分に時間を使っていただきましたので、皆様大変お疲れと思えますけれども、あとしばらくのおつき合いをお願いいたしたいと思えます。恐らく私はピッチャーゴロで、これでゲームセットじゃないかというふう  
に思っております。ひとつよろしく願いをいたします。

空梅雨、新型インフルエンザ、地球温暖化等、環境の変化が例年とは違うこのごろでございます。空梅雨におきましては、農家の方々が困っておられ、新型インフルエンザは世界的に恐れられ、地球温暖化はこれまた世界的に困ったものでございます。今回、6月定例会本会議におきましても、地球温暖化を考え、申し合わせといたしまして、ノーネクタイでもいいとのことで、私もノーネクタイでいこうと思って、本日はノーネクタイでございます。私は大のプロレスファンでございます。力道山、ジャイアント馬場、アントニオ猪木、ブッチャー、デストロイヤー選手等の試合を見ながら育ちました。せんだって、皆様も御承知のとおり、2代目のタイガーマスクこと三沢光晴氏46歳が試合中に頸椎離脱ということで亡くなりました。ファンといたしましても、心より御冥福をお祈りするところでございます。

では、通告に従い一般質問をさせていただきます。今回、3項目について質問をいたします。

まず、アメリカ・カリフォルニア州にありますセバストポールとの国際姉妹都市についてでございます。

昭和60年3月、旧山内町ではアメリカのセバストポール市と姉妹都市提携協定書を、その当時の市長さん、今、故人になられておりますけれども、トーマス・ミラー氏、また、その当時の旧山内町町長、故人でございますけれども、草場重治氏との間に交わされました。アメリカ・セバストポールというところはカリフォルニア州にありまして、一番近い空港はサンフランシスコでございます。それから、金門橋、御承知と思えますけれども、ゴールデンゲートブリッジを通りまして、車で1時間半、ちょうど西海岸のサンフランシスコから真北の1時間半のところに位置するところでございます。

今3月、市長は3月定例会終了後、同市を訪問されました。数日間、短い期間ではございましたけれども、そのときの訪問の感想をまずお聞かせいただきたいと思えます。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

お答えいたします。

3月26日から30日まで3泊5日という、今までかつてない過酷な日程でセバストポールに杉原議長に連れて行っていただいで参りました。私が思ったのは、本当にいろいろ聞いてい

ましたけれども、百聞は一見にしかず、セバスポールと山内町の交流が本当に根づいている。私があるスーパーに議長と一緒にいったときに、「from yamauchi?」というふうに言われるわけですよ。それぐらいセバスポールの皆さんたちに二十数年間の歴史が根づいているということで、私はそのときに思ったのは、福田会長さんを初めとして歴代の会長さん、ワールドフレンズの皆さんたちの本当に、何というんですかね、心温まる献身的なことがあってこれだけ根づいたんだということを議長とともに深く感じた次第であります。本当に温かく、子どもたちと一緒に参りましたので、中学生の諸君と一緒に参りましたので、非常にいい経験を彼ら、あるいは彼女たちはしたというふうに思っております。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

18番大渡議員

18番（大渡幸雄君）〔登壇〕

確かに百聞は一見にしかず、多聞第一、そういう主張ですので、見るのも見聞も第一によろしくお願ひしたいと思います。

そういうことで、セバスポールに行かれましたけれども、本当に私たちも、先ほど申しましたとおり、昭和60年3月に姉妹都市締結を行い、本当に1年越しに私たちなりに 私たちなりにいいましょうか、やまうちワールドフレンズ協議会というのがありまして、その協議会なりに一生懸命手づくりでやってきた国際交流でございます。

ちなみに、ここでセバスポールの御紹介を再度、もっと深く、詳しく皆様方にお知らせしたいと思ひます。というのも、合併をいたしまして、今回の派遣は全市にまたがり、市内の5つの市立中学校、また県立の青陵中学校にまで門戸といいましょうか、お声がけをし、中学生の派遣団の参加をいただきました。そういうことですので、これを全市にケーブルテレビを通じ、セバスポールの御紹介をさせていただきたいというふうに思ひます。

まず、先ほど言いましたように、地理的にはアメリカの西海岸にあります。人口は8,000人強のまちでございます。市と申しまして、日本の行政の市と町とは違ひまして、セバスポール市という中心部を指しております。その中で、シティ・オブ・セバスポールという名前なんですけれども、8,000人のまちでございます。その中にシティホールというのがございます、武雄市で例えるならば旧武雄町が行政の中心部を担っておりまして、その周りに橘、朝日、川登、武内、若木、山内、北方 全部言いましたかね。そういうのをつかさどっているということで、あとはその周りは郡になります。ソノマカウンティという郡の中の中心で行政をつかさどっているのがセバスポールというところでございます。その中に、市長さんがおられまして、市長さんというのは議員の中から選んでおります。6名だったと記憶しておりますが、6名の議員の中で1名がメイヤー、首長という立場になっておられます。これは1年交代でございます。議員さん6名はエレクトション、要するに選挙によっ

て選ばれ、その中で1年交代でメイヤーをやると。再任もあり得るということは聞いております。日本に例えれば議長さんというようなお仕事であります。議員さん、カンシルミーティングと言いますけれども、議会は毎週何曜日の何時から2時間というふうな決め方でありまして、ちなみに、セバストポールは火曜日の午後7時から9時までだったと記憶しております。こういう定例会はございません。市長というのは、今、日本に例えれば議長さんと言いましたけれども、日本でいう市長さんの仕事はシティホールに、市役所の中におられるシティマネジャー、この方が議会に提案をなされまして、議会で議決をもって執行すると。その流れは一緒でございます。

そういうセバストポール市、中心部には8,500名、一步離れれば、その隣町に行けば本当にアメリカという広大な広さの中に、また民家がぼつぼつとありまして、一例を申し上げますと、幹線道路に郵便ポストがたくさんございます。たくさんといっても10個ぐらいです。その10個は何でそこにあるかといいますと、それからわき道に入りまして、そこから私有地になって、車で5分行って、やっと家があるというふうなことで、新聞とか郵便とかいうのを家まで配達すると、組織的な人力、また時間もないと思います。そういう広いところだと思ってください。そういう広いセバストポール、中心部は本当に小ぢんまりした住宅街になっておりますけれども、そういう中で私たちは協議会の中でいろんなやりとりをやってまいりました。

ちなみに、昭和60年3月から今回の派遣の21年3月まで、どれだけの交流人口があるとお思いでしょうか、お尋ねをいたします。お互いに行ったり来たりでございます。

議長（杉原豊喜君）

牟田山内支所長

牟田山内支所長〔登壇〕

これまでの交流人口でございますけれども、日米合わせまして約400人強の方が交流をされているというところでございます。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

18番大渡議員

18番（大渡幸雄君）〔登壇〕

正確にいきますと、私の計算が間違いでなかったら、セバストポールからお見えになったのが204名さん、旧山内町及び今回の派遣、武雄市全般から行ったセバストポールを訪問した方が221名の425名、これだけの交流を24年間で持っております。また、そのほかにはプライベートで行った人も二十数名、私も延べ人数で記憶しております。そういうことで450名を超えるお互いの交流がっております。ちなみに、市長も先ほど申されましたけれども、セバストポールの市は親日です。13番議員の何とか寺とお寺のことを言われましたけれども、

セバストポールの中にはブッタの方もかなりおられます。日系の方もかなりおられます。その中に浄土真宗の円満寺、こういうお寺もあります。その周りには桜もいっぱいあります。そういうことで、特にセバストポールは親日じゃないかなというのも感じておるんですけども。それと、あのメインストリートを歩いていますと、向こうから話しかけられて、当然東洋人ですから、「どちらから来られましたか」と聞かれるんですよ。日本からというのは当然顔でわかっています。もちろん英語ですよ。「山内」と言えば、もうシェイクハンド、握手を求められ、どうかしたら手が届かないようなハグをやらなくてはいけないというようなことも経験しております。それと、本当にここまでなるのも相当苦勞もありました。今後、私たちもこれを維持しなくてはならないというふうに協議会のほうでも考えております。

そういう意味を込めまして、今後の交流について、市長はどういうお考えをお持ちか、お尋ねをいたします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私、交流会のときに、外務省のサンフランシスコの領事が私の後輩ですけども、来て、市長さん、これは必ず太い幹にしてほしいということをサンフランシスコの領事から言われました。そして、私が議長とともにびっくりたまげたのが、ぜひ武雄市と姉妹都市交流をしたいということがあちらさんの議会の議決としてなされていたということに、またびっくり。そして、再任された女性のサラ市長さんですけども、これは議会もそのように考えて、我々市民もそのように考えているから、市長、ぜひ帰国したときに考えてほしいということをおっしゃられました。私といたしましては、到達点は、今度我々が行くときは再来年になるかと思えますけれども、そのときにぜひ武雄市ともう一回姉妹都市の交流の締結を私個人はぜひ行いたいというふうに思っております。ただ、そのためには条件があって、山内、武雄、北方、皆さんたちがそうだねというように機運を盛り上げること、そして、なかならず議会の皆様方がぜひそれでやっていこうというような雰囲気、土壌がないと、いかに行政同士で姉妹都市を結び直したにしても、先ほど領事が言ったような太い幹にはならないと思いますので、私自身も精いっぱい行いますけれども、議員各位におかれましても、ぜひそういう関係醸成に向けて動いていただきたいというふうに思っております。

山内町のワールドフレンズが、ぜひ武雄市と姉妹都市を今回したいという申し出がありましたけれども、それについては、さまざまところでまだ早いのではないかとといったこと等も聞き及んでおりますので、私自身が行った経験からしても、それもいろんな人にまた話をして、そういうふうに2年後、到達点としては武雄市と姉妹都市交流を新たに結び直すというところにいければいいなというふうに思っております。そのときに、やはりワールドフレ

ンズは今までの歴史があります。つらく厳しかったところもあるかと思っております。私も直接聞いております。しかし、やはりワールドフレンズが前面に立って、先頭に立って、そして市が何らかの形で支えていくという構図が恐らく一番うまくいくだろうというふうに思っておりますので、これについても、どういう連携の仕方があるのかといったことについて、また大渡議員、福田会長さん、杉原議長等々と相談をしていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

18番大渡議員

18番（大渡幸雄君）〔登壇〕

どうもありがとうございます。ぜひそういうふうをお願いをしたいというふうに私も希望しております。ことしの3月に、市長が先ほど言われましたように、武雄市との姉妹締結をやるという準備も進めておりましたが、諸般の事情によって断念をしております。ぜひ再来年ですね、こちらから来年は向こうからまた訪問団がお見えになります。その翌年はこちらからまた行くようになりますので、市長、その折にはぜひともまた同行いただきまして、正式な調印をお願いしたいというふうに思っております。

ちなみに、市長、向こうから市長さんがお見えになった年をちょっとお知らせします。60年3月、ミラー市長夫妻、次に平成7年3月、ラリー夫妻、次に平成13年8月、ロビン夫妻、今回はサラ市長さんなんですけれども、御夫妻でお見えというのが多いんですね。4名の市長さんがお見えなんです。私の記憶は、旧山内町の永尾町長、残念ながらお1人、今回、樋渡市長、お1人。（発言する者あり）いやいや、御夫妻でぜひ見ていただきたいと。杉原議長も演壇で首をかしげておられますけれども、皆さん御夫妻で行っていただきたいというふうに思います。本当にいいところでございます。

ちなみに、今回4月に私もアメリカに行きまして、新型インフルエンザが起こる前に帰ってきてよかったなと思っておりますけれども、女房と初めてセバストポールも訪問させていただき、女房も感激、感動したところでございます。本当にここまでやってきてよかったなという実感のもとに、これは大変な仕事を仰せつかっていると、これを持続していくのも大変というふうに考えております。

そこで、市長に最後にこの件に関しましてお伺いをいたしますけれども、協議会も一生懸命やっていく所存でございます。市のほうのバックアップといたしますか、後押しの決意を述べていただきたいというふうに思いますけれども、近い将来、できれば担当課（283ページで訂正）を設置していただければ、いろんな面で調整役にもなるし、また国際交流を含めた外国人等の窓口にもなりませんかというふうに思っておりますので、これは意気込みをお聞かせいただければというふうに思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

お答えをいたします。

行政としてもバックアップしていこうというふうに思っております。いきなり課は、ちょっとさすがにどうかなというふうに思いますので、政策部の中に市民協働課があります。もう少し中身が煮詰まってきたときに、そこに姉妹都市係をつくろうというふうに思っております。セバスポール係になるかもしれませんが、そういったことで所掌をきちんとはききりした上で後押しをしていくことと思っております。

それと、先ほどちょっと言い忘れたのが、本当にうれしく思っているのは、最初、20年前に行った子どもたちが今親となって、今度は親としてまた行きたいと。親が子どもにまた一緒に行こうというふうに、本当に世代を超えてつながりが富士山のように末広りのように広がっていくのを見て、私も総務省にいたときに、実は姉妹都市行政をちょっとだけかじっていました。でも、これだけうまくいっているのは本当になかなかないんですね。だから、ぜひこれは市民の財産として、この合併効果として、山内の皆さんたちが体感されていること、これを旧武雄市、北方町に広げていければ、本当にさらにいい教育効果等が生まれるんじゃないかなというふうに期待をしております。

議長（杉原豊喜君）

18番大渡議員

18番（大渡幸雄君）〔登壇〕

先ほど私、課と言いましたかね。申しわけございません。係と言ったつもりですので。最初から課は無理なので、係から徐々によろしくお願ひしたいと思ひます。

ちなみに、佐賀県の状況をホームページから拾い出しました。今現在、姉妹提携をやっている県内の自治体は10カ所、それで18の国際姉妹都市を持っておられます。一番多いのが中国、韓国、そのあたりで、各自治体が姉妹提携を持たれております。その情報の次のページに、姉妹自治体優良事例紹介というページが2ページ目にあります。これは何と我が山内町のやまうちワールドフレンズ協議会の御案内をしてあります。ですから、私たち協議会のメンバーもこのホームページを見たときには、本当にやってよかったなという気持ちでいっぱい見たところでございます。今後、これがさびることなく頑張っていきたいというふうに思っております。

なお、つけ加えますけれども、北カリフォルニア佐賀県県人会というのもございますので、こういうところと連携をして、今後よりよい国際交流を進めていき、また市のほうのバックアップ、後ろ盾もよろしくお願ひを申し上げます。

セバスポールに関しましては以上で終わります、次に、企業誘致についてお尋ねをいたします。

企業誘致につきましては、6番議員のほうから北方の宮裾の今度開発する市の工業団地の質問が出ましたので、重複いたしますので、その件は避けていきたいと思えます。すみません、宮裾の件で1件だけお尋ねをいたします。

平成23年3月に完成予定、20ヘクタールと聞き及んでおります。まだ値段もはじかれていないので、ちょっとはっきりした内容はわからない わからないじゃないですけども、申し上げられないという答弁でございました。

そこで、当然、企業誘致となれば工業用水、この問題が出てくるかと思えます。やっぱり工業には水がつきもの、道路もつきもの、これはすばらしい立地条件であると思えます。武雄北方インターも近いですし、大先輩の29番黒岩議員が県道、あれは北方朝日線だったすかね、あれの整備も早くせいというようなこともおっしゃられております。それに加えて、私は工業用水をどうするのか。当然必要になると思えますので、その辺のお考えをお尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

伊藤営業部理事

伊藤営業部理事〔登壇〕

新工業団地の工業用水の関係でございますけれども、属地在北方町にすべて入っています。北方町につきましては、杵島郡の江北町、大町町、それと旧北方町、この3町で杵島工業用水というのをつくり、その給水区域ということになっております関係上、一応杵島工業用水道から引きたいということで、今、杵島工業用水道とお話をしています。ちなみに、杵島工業用水の現在の余剰水量としては1日当たり3,000立方メートルあるということでございました。

議長（杉原豊喜君）

間もなく17時になりますが、本日の会議は議事の都合により、あらかじめこれを延長いたします。

18番大渡議員

18番（大渡幸雄君）〔登壇〕

範囲が杵島工業用水の地区になっているという答弁なんですけれども、武雄も武雄工業用水道を持っております。これの検討はなされたものか、その点もお尋ねをしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

宮下水道部長

宮下水道部長〔登壇〕

若木の工業団地へ給水しております配水管から分岐しまして宮裾の工業団地に給水するとしますと、延長が約1,370メートルほどになります。引き込み延長を600メートルとしますと、約2キロということになりまして、工事費が概算で6,000万円ぐらいかかるということにな

りまして、実際に誘致します企業が日量1,000トン以上利用していただくということであれば、資金の回収が10年ぐらいでできるのかなというぐらいに思っております。そういったことで、一応水道部としましても検討はいたしております。

以上でございます。

議長（杉原豊喜君）

18番大渡議員

18番（大渡幸雄君）〔登壇〕

2キロの配水管の布設で費用対効果等が望めないというような答弁だと思います。1,000トン以上すれば何とかなるというふうな試算でありますので、水を使うような企業が来れば、その辺もあわせて検討していただきたいと、絶対だめということはありませんか。それをお尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

伊藤営業部理事

伊藤営業部理事〔登壇〕

水道部長とちょっと重複するかもわかりませんが、これは認可の関係で考えますと、まずもって重複した認可というのはなかなか厳しいんじゃないかなというふうに思っています。そういう意味で、まずもって先行された杵島工業用水を使う。その上で、足りないときについて武雄工業用水をお願いするということになりますけれども、先ほど水道部長がおっしゃるとおりで、半端な数ではなかなかお願いができないということもありますので、その段階では調整をしながら布設をするということ考えたいというふうに思っています。ちなみに杵島工業用水道の工業用水の布設については、武雄市としましては、杵島工業用水道企業団で布設をしていただくことを求めているところでございます。

議長（杉原豊喜君）

18番大渡議員

18番（大渡幸雄君）〔登壇〕

そういう諸般の事情、認可等があるということですが、武雄工業用水道も苦しい経営じゃないですけども、経理をやっておりますので、頭の片隅にだけ置いていただいて、利用できる所は大いに利用していただきたいということを申し上げたいと思います。

それと企業誘致に関しましては、今、病院問題いろいろあっておりますが、武雄市民病院の移譲後の仮称新武雄病院も企業誘致の一環だということで、通告も申し上げておりましたが、6月13日、6月12日、佐賀新聞、西日本新聞の中で大きく報道をなされておりますので、この件については割愛し、早く病院が完成することを期待し、企業誘致の問題は終わりたいというふうに思います。

次に、危機管理についてお尋ねをいたします。



冒頭申し上げました世界を今、メキシコに発する新型インフルエンザ、日本もきょうの新聞では653名の感染者が出たというふうに報道もなされております。きょうは長崎県からも出たと。せんだって福岡県。挟み打ちに遭っているんじゃないかなというふうに考えますけれども、インフルエンザの対応につきまして、先ほど13番議員だったですかね、お尋ねがあっておりました。

その点で、どういうインフルエンザの対応をなされたか、事業等があればお知らせ願いたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

國井くらし部長〔登壇〕

今回の新型インフルエンザにつきましては、議員がおっしゃるとおり、4月に急激に出てきたところでございます。これにつきましては、我々よりもマスコミのほうが報道、情報収集が早いということで、我々も苦労したところでございますけれども、一応全国的な扱いとかはマスコミ等で報道されておりますので、市の対応について申し上げたいと思います。

今、申し上げましたように、4月28日にWHOから警戒水準フェーズ4、人から人へ感染しているということで新型インフルエンザの発生宣言をして、対策本部を国がつくったところでございます。それに呼応して、佐賀県でも発熱コールセンターの設置をして相談対応ということで、それから対策本部と保健所から成る地域対策本部を設置したところです。武雄市においても、同28日に教育委員会、各課と支所から成る健康危機管理室を設置し、対策会議を開催し、情報の共有、提供及び各課における取り組みの状況の把握に努めてまいったところでございます。2回目の会議を5月1日にし、国内発生時には市の対策本部の設置をするというようなことで確認をしたところでございます。3回目が5月18日に国内の感染拡大期になり、感染性は季節性インフルエンザと同じくらい強いが、弱毒であり、症状が軽症なため、対応の軽減の確認ということで、対応を若干軽減するということを確認しています。そして、このまま健康危機管理室の設置による対策を続けていくとの確認をしております。

一方、県との会議でございますけれども、県の会議には参加しながら、情報の収集、それから市民及び職員への周知などの協議をして対応したところでございます。

市民へのお知らせということで、国に新型インフルエンザ発生宣言が4月28日になされたので、4月30日に県がまず発熱コールセンターを設置しましたと、発熱した場合はそちらで相談をしてくださいということも4月30日に印刷し、5月の広報と一緒に配ったところであります。また、ケーブルテレビの市役所だよりでインフルエンザ情報を2回放映いたしております。1回目は5月2日より24日まで放映し、市における新型インフルエンザ危機管理室の設置、相談窓口の設置のお知らせや感染予防のポイント、佐賀県発熱コールセンター

の問い合わせなどを広報したところでございます。2回目は、国内で新型インフルエンザが発生しましたというお知らせと、引き続き予防に心がけてくださいという放映を行いました。また、6月号の市報に新型インフルエンザ情報として、感染予防のポイント、市の各施設における感染対応、消毒液の配置、佐賀県の発熱コールセンターについてを掲載しております。

市における新型インフルエンザ対応行動計画が国、県と同じ鳥インフルエンザ対応であるため、今回のインフルエンザにつきましては弱毒性であるということから、外出の自粛や休校等の要請は特にとらず、柔軟な対応をするというようなことで確認しております。

議長（杉原豊喜君）

部長、答弁は簡潔に。

國井くらし部長（続）

以上でございます。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

予算面から簡潔に答弁いたします。

既に当初予算で700万円、防護服を中心に組んでおりますけれども、今度の追加補正でお願いをいたします地域活性化・経済危機対策交付金の事業で920万円、皆様方に御承認をいただこうと思っております。

その中で、伊万里市さんが市民用のマスクという報道がなされて、それを古賀副市長がこれはすぐやるべきだということで判断をされ、私としてもそれに同意をし、今般、この中の目玉として市民への緊急放出用マスク、人口5万2,000人掛ける10枚、52万枚を緊急に確保するというので、市民の皆様方に安心をしていただくというために放出をしようというふうに思っております。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

18番大渡議員

18番（大渡幸雄君）〔登壇〕

先に答弁いただきまして、ありがとうございました。伊万里市さんのそういうふうなことをちょっと情報を仕入れましたので、武雄はどうなるかという問いを思っていたんですけども、よろしく願いいたします。

それと、先ほど部長の答弁の中に、5月の市報にも入っていましたか。

議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

國井くらし部長〔登壇〕

発熱コールセンターのお知らせということで、チラシを別に、5月の市報と一緒に市民の皆様にお届けしたということでございます。

議長（杉原豊喜君）

18番大渡議員

18番（大渡幸雄君）〔登壇〕

それやったら探していますけれども、5月の市報では私は探すことができませんでした。しかし、市報もこの半分ですよ。この中には予防のポイントというのは十二分に書いてあります。手洗いしましょう、うがいしましょう、マスクしましょう云々。それと、佐賀県の発熱コールセンターのフリーダイヤルも24時間体制で受け付けております。が、新型インフルエンザとは皆さんどんなもんかわかっておられるでしょうか。ですから、ここに、よかったら症状、こういう症状が出たらここに連絡ください。幸いにも武雄市、佐賀県の中で発生をいたしておりますが、これは検討の余地はあるんじゃないかと思うんですけど、部長いかがでしょうか。症状まで入れたほうがいいんじゃないかと思うんですけど。

議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

國井くらし部長〔登壇〕

症状につきましては、鳥インフルエンザのときに載せておりましたけれども、大体同じような症状です。弱毒性ということでございますけれども、今回、新型Aにつきましては、やはりそのように取り組むべきだと思いますので、今後注意いたします。

議長（杉原豊喜君）

18番大渡議員

18番（大渡幸雄君）〔登壇〕

それは鳥インフルエンザと同じとわかっておられるのは専門家なんです。実際、やっぱり私たち市民は前、それは冊子でとっていますけど、そこまでは気づかないと思いますので、それは配慮としてよろしくお願いをしたいというふうに思います。

それに加えて、次に、在住外国人への対応というのも当然このことなんです。今、営業部でつくられておる観光パンフレット等には英語、中国語、韓国語というのもありますけれども、これは市報は外国人に行っているか、外国人登録しておられる方には行っているかなと思うんですけど、それは読めないですよ。何かの方法で、こういうときには企業ならば企業の担当者がいると思います。市で雇われたALTとかなんかなれば市の担当者がいると思います。

そういうところで、これは特にこういう伝染、感染的なものは、外国人を雇われている企業に対してとか、学校に対してとか、それは今回フォローをされたでしょうか。それをお尋

ねしたかったんですけども、よろしく願いをいたします。

議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

國井くらし部長〔登壇〕

今、外国の方が来ている企業は大体4社ほどありますけれども、この企業につきましては、県のほうからインフルエンザによる事業継続計画の策定というのをつくれということで指示しております。それで、企業のほうからも情報を流しておりますので、また身近に発生した分については、県と一緒に市のほうも状況等を指導したいと思います。

それから、今申しましたように外国人対応ですけども、これは県下という考え方でしておりますので、今のところ県に対しても英語、中国語、韓国語、その他で対応できるようにできないかということで協議をしております。

議長（杉原豊喜君）

18番大渡議員

18番（大渡幸雄君）〔登壇〕

企業のほうはわかりますけど、教育部のほうでALTに関してはいかがでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

今回のインフルエンザにつきましては、健康課のほうで非常に早い時期に行動計画が出されておきまして、5月の校長・園長会におきまして健康課長から説明をしてもらいました。ですから、学校においては校長、教頭から英語担当を通じてALTさんに指導をしてもらおう、連絡してもらおうと。それから、時々お会いになるかわかりませんが、学校教育課のほうにも定期的に来てもらっていますので、こちらのほうでまた話をするというような形で対応したところでございます。

議長（杉原豊喜君）

18番大渡議員

18番（大渡幸雄君）〔登壇〕

しょっちゅうではありませんけれども、私も外国に行ったときに、ホテルとかホームステイとかかなりありますが、やっぱり不安というのが物すごいあります。ましてや仕事で来ておられる皆様方にとっては、どこか駆け込み寺と言ったらおかしいんですけども、確立したところが1カ所、本人に対して1カ所なくてはならないというふうに思います。そういうところで、十二分な対応を今後お願いしたいと。もしものことがあれば、いろんな感染症等があればよろしく願いしたいと思います。

ちなみに、武雄市に在住しておられる外国人というのは227名おられます。一番多いのは

中国の方なんですけれども、その次、韓国、あとはアメリカ等ですね。こういう方たちがおられますので、市長が言われるように、武雄はよかまちばいというふうなところでいくなれば、そういうフォローもしていただきたいというふうに思います。

私の思った時間が来ましたので、以上をもって質問を終わりたいと思います。時間を延長までしていただきまして、おつき合いいただきましてありがとうございます。

以上で終わります。